

市民グループ「私が東京を変える」主催

宇都宮健児 前日弁連会長 井戸川克隆 前双葉町町長 未来を語る

ふたばまち
前双葉町町長

司会 マエキタミヤコ

4月6日(土) 19:00 開演

渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール



渋谷区文化総合センター大和田

渋谷区桜丘町 23-21

※ホールには駐車場がございません。公共交通機関をご利用ください。

アクセス1・渋谷駅から徒歩5分

アクセス2・大和田シャトル(ハチ公口ー文化総合センター大和田) 直行バス

・ハチ公バス(夕やけこやけルート) コミュニティバス

※どちらもバス停「渋谷駅ハチ公口」から乗車、次のバス停「文化総合センター大和田」下車

「福島を風化させてはいけない」という宇都宮健児氏、「多くの人に聞いてほしい」と願う井戸川克隆氏の対談が実現!

聞くということ。忍耐強く耳を傾けるということ。宇都宮健児氏のこれまでの活動は実に忍耐強く「聞く」ことから始まった。真実の声を聞き逃さない、そして権力に立ち向かう姿は、わたしたちにとって「真のやさしさに裏打ちされた強さ」を感じさせてくれる。現代社会においてこれほど頼りになる人物を他に思い浮かべることができない。

「風がどちらに吹いているか」…福島第一原発が危ないと聞いたとき、井戸川克隆町長は風を読んだ。「町民を被曝させてはならない」その一念で県外への避難を決めた。強い意志が町民を放射能から守った。そして井戸川克隆氏の闘いは始まった。

このお二人の対談は、私たちの未来に一筋の光をもたらしてくれる。そんな予感がする。

市民グループ「私が東京を変える」代表 山口あずさ

①3月上旬チケット販売開始 前売り 700円(当日 800円)

②Peatixで先行販売中! → <http://peatix.com/event/10669>

③メールでの受付は予約メールにて(稲村)→20130406@watashiga.org

※詳細は「私が東京を変える」ホームページ <http://watashiga.org/>

または第2弾チラシにてお知らせいたします。

井戸川克隆様
拝啓

ジュネーブ 2013年2月13日

昨年のジュネーブご訪問に改めて感謝申し上げます。Palais Eynard（市庁舎）に井戸川さんをお迎えできたこと、大変光栄に存じます。2011年3月に発生した原発事故後、日本国民の皆さんが直面している問題の理解がより深まりました。

去る1月23日に、辞職の申し出をされたと聞きました。苦渋の決断だったのではとお察しいたします。井戸川さんは、福島県の首長の中でただ一人、住民を県外に避難させ、原発事故の深刻な状況に対し無策、無責任な態度を取る政府、東電を公然と糾弾されてきました。放射能被害から町民の皆さんを守るために、あらゆる措置を講じられてきました。辞職されたことは残念に思います。

昨年10月にお会いした際、チェルノブイリと日本の避難基準を比較した表を見せて下さいましたね。日本政府が、直ちに健康への影響はないとの見解から、年間の放射線許容量を20mSvまで引き上げたこと知り驚きました。

ご存知の通り、ICRPは一般公衆の年間被曝許容量を1mSvと勧告しているほか（放射線取扱従事者の被曝許容量は年間20mSv）、子供は大人よりも放射能に対する感受性がより高いことは周知の事実です。また、放射能が及ぼす健康被害についても幅広く論文化されており、最近ではニューヨーク・サイエンス・アカデミーが2009年に発行した研究書に詳細が述べられています。1そして、多くの独立した研究者が数十年來の研究結果から、被曝に安全なレベルはないと唱えています（ICRPも閾値なし直線仮説を認めています）。

ICRPが勧告した年間被曝許容量の引き上げ正当化の立証責任は、日本政府にあります。しかし、そんなことを実証できるのでしょうか。実際には、これ（1mSv）以下の低線量被曝による健康被害が認められていることから、許容量など何の役にも立ちません。政府に福島県民の皆さんがモルモットのように扱われている事態は許しがたいです。事実、政府はIAEAとWHOの協力のもと、福島県民の健康実態のデータを集めようとしています。これは人権侵害であり、即刻阻止しなくてはなりません。

井戸川さんは、今後も政府当局による非人道的な扱いから、町民の皆さんを守るための戦いを続けていかれると聞きました。より多くの人々が共闘することを心から望んでいます。人々が高濃度汚染地域での生活を強いられていることは到底受け入れられません。政府と福島県が、双葉町の皆さんを致死的なレベルに汚染された地域に帰還させようと画策していることは狂気の沙汰としか言いようがありません。

また、福島県の約40%の子供達に甲状腺の異常が認められたことは恐るべき事態です。福島県外でも、甲状腺異常の発生件数が増えていると聞きました。このような非常事態の中、保健当局は真実を隠蔽し、被曝の影響を否定しています。（昨年）お会いした時に井戸川さんが強調されていた通り、日本人はチェルノブイリから学ばなければなりません。福島は、住民の皆さんの全体的な健康被害の発生頻度を見る限り、チェルノブイリよりもはるかに深刻に思えます。ご存知かと思いますが、チェルノブイリ周辺における甲状腺がんの発生件数は、1990年代に入ってから増加し始めました。双葉町では約300人の住民の皆さんが、福島第一原発の第1号機爆発後、高濃度の放射性降下物を浴びたと仰っていましたね。にもかかわらず、政府や保健当局は、被害者の皆さんに対して健康調査を実施しなかったとのこと。（昨年）の会合時にお約束した通り、ジュネーブ市は、医療関係者やIndependentWHOなどをはじめとする団体と協同して、適切な健康調査が実施されるよう、最大限サポートしていく所存です。他に何か協力できることがありましたら、遠慮なく仰って下さい。

今後益々のご活躍をお祈りするとともに、正義を勝ち取るための戦いに多くの皆さんが団結することを望んでやみません。くれぐれも健康に留意され、またジュネーブでお目にかかれることを楽しみにしております。

敬具

ジュネーブ市長 レミー・パガーニ

対談前に、映画「フタバから遠く離れて」をご覧ください。ことをお勧めします。

「フタバから遠く離れて」上映予定

公式HP <http://nuclearnation.jp/jp/>

- 東京・渋谷 オーディトリウム渋谷（再上映）
2月23日～3月15日 03-6809-0538
- 大阪・十三 シアターセブン（再上映）
2月23日～3月15日 06-4862-7733
※日程によって会場が変わります。
- 北海道・札幌 蠍座
3月5日～3月11日 011-758-0501
- 石川・金沢 シネモンド
3月9日～3月15日 076-220-5007
- 東京・大森 キネカ大森
3月16日～3月22日 03-3762-6000
- 京都・京都 京都シネマ
3月23日～4月5日 075-353-4723

※詳細は劇場にお尋ねください

4月6日は<谷中の家>での上映会もあります。
ご覧になってから対談に間に合います。

第12回月1原発映画祭

「フタバから遠く離れて」

上映+船橋淳監督トークと交流カフェ

日時：4月6日（土）10時半開場

11:00～12:40 1回目上映

12:45～13:15 監督トーク

13:30～15:00 監督を囲む交流カフェ※

15:30～17:10 2回目上映

会場：谷中の家（東京都台東区谷中3-17-11）

参加費：上映各回1000円（監督トーク付）

※交流カフェは別途飲食代として500円～カンパをお願いします。

定員：各回30名（要予約）

*詳細・申し込み方法は「地域から未来をつくる・ひがし広場」

<http://www.jtgt.info/> をご覧ください。

主催：地域から未来をつくる・ひがし広場